



高名なお坊さん(その10)

道元禅師 禅僧(曹洞宗)



道元禅師

道元禅師は、鎌倉時代の1200年(正治2年)1月26日に京都でお生まれになりました。幼少より聡明さを発揮され9歳で『俱舍論』を読まれたとの逸話が残っています。道元禅師は3歳の時に父を亡くし、8歳で母の死にあうという悲しい体験とおして世の無常を強く感じられ、その心を仏の道へと傾けられたのでした。

1213年4月9日、14歳の禅師は比叡山の座主公円僧正について剃髪し、出家得度されます。

1223年、24歳のとき、求道の志をさらに強くした道元禅師は明全和尚と海をわたり、宋(中国)の地を踏まれます。正師を求め諸山をたずね、ついに天童山にて如浄禅師とめぐりあわれます。道元禅師は如浄禅師を生涯の師として仰ぎ、坐禅修行に励まれます。そして、ついには悟りの境地を認められ印可証明を受け、お釈迦さまより脈々と続く、正伝の仏法を受け継がれたのでした。

1227年(安貞元)年、28歳の道元禅師は5年におよぶ修行を終え、日本に帰国され直ちに、坐禅の心がまえや作法などについて書かれた『普勸坐禅儀』を著され、その後『正法眼蔵』の最初の巻である『弁道話』を著されました。

1253年9月29日(陰暦8月28日)に54歳でその生涯をとじられました。



道元禅師頂相



道元・達磨大師像

住職レター

全国各地で自然災害が頻発しています。地球温暖化のせいでしょうか。コロナ禍に加えての自然災害ですから、まさに『弱り目に祟り目』であります。この秋は、毎週のように台風の猛威に晒されました。天気予報ニュースでは、「かつてない巨大な勢力の台風です」と注意喚起されましたが、幸い善教寺付近では大きな被害はなかったようです。

この時期の台風、梅雨時の集中豪雨、報道ニュースでは、「自分の身は自分で守るように」と、耳にすることが多くなった昨今であります。あと、忘れてはならないのは、地震でしょうか。

私が住職を継いでから今日まで、二つの大きな自然災害に遭遇しま



折れた山門の柱

した。一つは、平成十三年の芸予地震。山門の柱が折れました。もう少し揺れていたら倒壊したことでしょう。御経堂の白壁が崩落。納骨堂の屋根瓦が崩壊。本堂内陣の荘厳が落下破損。二つ目は、平成三十年の豪雨災害。善教寺は直接の被害はありませんでしたが、近くの山は崩れ、ご門徒宅にも土砂が入り込

み、各地の道路は崩落して通行止め。

気象レーダーのお陰で、かなり前から台風の接近と規模、予想進路が分かるようになりました。線状降水帯の状況も判明するようで、この時間帯には急激な雨が降るとの予測も分かります。とても有り難いのでありますが、それに伴い、人間の感覚は衰えていつているような気もしないでもなく。

昔の人は、空の色、雲の流れ、空気の匂いで、嵐がくると察知できたのでしょ



御経堂の白壁が崩落